



日中笹川医学協カプロジェクト

笹川医学奨学金進修生同学会事業

2018 年度事業報告書

笹川医学奨学金進修生同学会

公益財団法人 日中医学協会

目次

1 短期診療技術研修	
1.1 呼吸器疾患実用技術研修	1
1.2 養老政策立案者訪日研修	3
2 地域医療支援活動	
2.1 都江堰地区医療支援活動	4
2.2 日本支部健康講座・健康相談会	6
3 支部学術会議	
3.1 河南・河北・山東地区交流会	12
3.2 上海地区交流会	14
3.3 広東地区交流会	16
3.4 吉林地区交流会	18
3.5 雲南・貴州・四川地区交流会	20
3.6 陝西・山西・甘肅地区交流会	22
3.7 日本支部第1回全国記念学術集会	24
3.8 日本支部総会・学術セミナー	26
4 日中共同フォーラム	
4.1「生活習慣病の現状と対策」フォーラム	28
4.2「がん診断治療」フォーラム	30

1 短期診療技術研修

1 短期診療技術研修

1.1 呼吸器疾患実用技術研修

概 要

期間:2018年6月4日(月)~9日(金)

会場:中日友好医院

実施責任者:王玉華 中日友好医院弁公室職員

受講者:20名(江西省、安徽省、チベット自治区、貴州省、内蒙古自治区、山東省、陝西省、青海省、甘肅省、河北省、黒龍江省の県レベルの病院に勤務する主治医師等)

研修内容:中日友好医院の教師陣による座学及び実習



開講式



講義

1. 講義内容：
コミュニティ獲得性肺炎概論
抗菌薬のより効果的使用法
肺膿瘍
PCCMの見学学習
重症コミュニティ獲得性肺炎の治療
慢性咳嗽に関する診療の考え
気管支喘息--GINAガイドの解説
慢性閉塞性肺疾患（COPD）のリハビリテーション及び中日友好病院での実践
気管支拡張症の診療の進展
FUO（不明熱）
呼吸治療
呼吸器センターの多職種チームの病棟回診に同行
NSCLCの遺伝子ドライブ検査と精度管理
肺動脈圧上昇
肺血栓塞栓症の画像診断
肺機能
慢性閉塞性肺疾患（COPD）--GOLDガイド解説
肺の陰影と発熱の診断
肺移植の適応疾患
呼吸器疾患における（即時）超音波検査の臨床応用
喘息における気道炎症治療の応用
肺血栓塞栓症の標準化抗凝固療法
中国肺血栓塞栓症ガイド（2018）解説
睡眠時無呼吸症候群
特発性間質性肺炎の分類
特発性肺線維症
2. 病棟内臨床実習回診：
呼吸器センターの見学、呼吸器科及び重症医学科における病棟内臨床実習回診に同行、症例検討

1 短期診療技術研修

1.2 養老政策立案者訪日研修

概 要

期間:2019年2月25日(月)~3月1日(金)

場所:東京都内

実施責任者:笹川同学会(主管部門:中国国家衛生健康委員会国際合作司)

訪日者:8名 中国国家衛生健康委員会医政医管護理・康復処副処長等

研修内容:厚生労働省、東京都福祉保健局、高齢者施設等を訪問、日本財団在宅介護センター

日付	時間	日程
2月25日(月)	午後	講義:「日本財団在宅看護センター」起業家育成事業について 喜多悦子 笹川記念保健協力財団会長
2月26日(火)	午前	講義:①東京都における医療・介護連携、②東京都における介護保険について 東京都福祉保健局(新宿区)
	午後	見学:ニチイケアセンターしろかね(港区) 見学:ニチイホーム用賀(世田谷区)
2月27日(水)	午前・午後	講義と見学:高齢者医療から介護へ、老人保健施設、病院認知症専門棟 介護老人保健施設 足立老人ケアセンター(足立区)
2月28日(木)	午前	日中医学協会訪問 新井 一(順天堂大学学長, 日中医学協会業務執行理事)
	午後	講義:①医療介護連携、②介護保険制度について、③看護及び介護人材養成について 厚生労働省(千代田区)



東京都福祉保健局における講義

2 地域医療支援活動

2 地域医療支援活動

2.1 都江堰地区医療支援活動

概 要

第1回医療支援活動

実施日:2018年5月30日(水)

場 所:四川省都江堰医療センター

実施責任者:冉玉平 四川大学華西医院皮膚性病科教授(4期生)

参加者:21名

冉玉平教授、李忠金秘書長、都江堰医療センター皮膚科医師

第2回医療支援活動

実施日:2018年11月1日(木)

場 所:四川省都江堰医療センター

実施責任者:冉玉平 四川大学華西医院皮膚性病科教授(4期生)

参加者:21名

冉玉平教授、李忠金秘書長、都江堰医療センター皮膚科医師

活動内容:①冉玉平教授が「皮膚の真菌感染性疾患の検査と治療」と題する講演を行った。

②皮膚科外来の各診断室、診療室のレイアウト等に関するリサーチ調査と指導

③重症な頭部疥癬罹患児1名の診断治療を通じて現場指導を行った。

④冉教授は自らサンプルの採取方法と真菌の鏡検法を実演、指導した。

報 告:当活動を通じて、華西病院皮膚科と都江堰医療センター皮膚科との「一対一」の定点医療支援体制を構築することができた。冉教授が直接に皮膚科の若手医師を手取り足取り指導することにより、地域医療者の診療レベルの向上につながった。今後、地域医療者の診療技能を向上させて、大病院への患者集中の緩和につなげるためには、より長期的な支援体制を構築することが必要である。



冉玉平教授(前列向かって左から三人目)と都江堰医療センター皮膚科医師ら



冉玉平教授による症例指導



冉玉平教授による鏡検法指導

2 地域医療支援活動

2.2 日本支部健康講座・健康相談会

概 要

中国残留邦人とその家族は日本語の修得が困難で、日本の医療に関する理解不足のために医療機関を受診する機会が少ないという状況の解決を支援するため、関東と関西の中国残留邦人とその家族を対象に中国語で健康教育講座を行うとともに、個別に中国語で健康相談を行っている。

第1回健康講座・健康相談会

開催日:2018年9月8日(土)

場 所:長寿楽園(通所介護施設)(東京都板橋区)

実施責任者:李亜範 日本支部副会長、在日中国人医師協会副理事長(13期生)

参加者:32名

施設利用者(主に中国残留邦人とその家族)と施設職員20名、笹川同学会日本支部会員と日中笹川医学奨学金制度第40期研究者12名

協 力:長寿楽園(通所介護施設)

プログラム:

① 健康講座

・挨拶 笹川医学奨学金制度及び同学会日本支部の活動の紹介

李亜範 日本支部副会長

・講演「血の流れをよくして万病を消す ～瘀血の診断と治療～」

袁世華 日本支部名誉会長、杏林中医薬情報研究所長(2期生)

② 健康相談会

日本支部会員が各専門分野別に参加者の話を聞き、相談を受けてアドバイスをしたりした。

報 告:健康管理面で困っていることが多いという印象だった。対象者がほとんど残留孤児とその配偶者として帰国し、日本の生活に慣れない部分が多く、また日本語が話せないことや、周りとのコミュニケーションが取れないから、病院受診等に不便さを感じている。特に、日本の医療制度、介護保険制度、社会資源などに関する基本的な知識が乏しく、プラス言葉の壁で、文化的に適応するには、継続的なサポートが必要である。それで、今回の活動はとても意義深く、今後の継続が必要だと感じた。



袁先生の講演



健康相談会



参加者の皆さん

第2回健康講座・健康相談会

開催日:2018年12月8日(土)

場 所:西ひかりが丘団地会議室(神奈川県横浜市)

実施責任者:李亜範 日本支部副会長、在日中国人医師協会副理事長(13期生)

参加者:51名

中国残留邦人とその家族等40名、笹川同学会日本支部会員11名

共 催:恒拓介護経営者連合会、

後 援:東京 寿楽・寿の家/埼玉-笑苑

プログラム:

① 健康講座

司会 佐々木弘志 恒拓介護経営者連合会会長

・挨拶 笹川医学奨学金制度と同学会日本支部の活動の紹介

趙 松吉 日本支部会長、福島県立医科大学教授(19期生)

・講義「目の健康について」

李亜範 日本支部副会長

② 健康相談会

漢方、眼科、腫瘍科、消化内外科、生活習慣病、薬物使用等6相談チームに分け、健康相談を行い、参加者及び家族の健康面での病気、症状、日常生活面での不安や悩みを聞き、アドバイス・助言を行った。

報 告:参加者から健康面・生活面における個別事情を聴くことができた。また、第1回健康講座・健康相談会後の役員会で提案された参加者アンケート用紙を配布し、健康講座・健康相談会に対する参加者からの意見を聞き貴重な情報を得ることができた。



第2回健康講座参加者アンケート集計						
参加者						
配布	回収	回答率	男性	女性	無回答	合計
40	27	68%	13	13	1	27
年齢別						
		65-70歳	0	3		3
		75-80歳	8	7		15
		80-85歳	4	3		7
		90歳以上	1	0		1
学歴						
小学校	中学校	高校	専門学校	大学	大学院	無記入
19	4	1	1	0	0	1
来日年数						
5-10年	15-20年	21-25年	26-30年	40年以上		
2	4	7	12	1		
満足度						
かなりに満足	満足	やや満足	やや不満足	不満	かなり不満	無記入
11	9	3	2	0	0	1
日本語について						
日常会話可能	交流困難	余りできない	全くできない			
7	15	2	2			
講座時間						
短い	やや短い	ちょうどよい	やや長い	長い	無記入	
1	8	13	3	0	1	
交通手段						
バス	電車	車	徒歩	無記入		
12	1	0	12	1		
参加について						
ちらし	ポスター	知人の紹介	連合会の紹介	参加経験あり	無記入	
0	0	4	11	3	9	

第3回健康講座・健康相談会

開催日:2019年2月9日(土)

場 所:明石市生涯学習センター(兵庫県明石市)

実施責任者:呉小玉 日本支部副会長、京都光華女子大学教授(21期生)

参加者:59名

中国残留邦人とその家族等52名、笹川同学会日本支部会員7名

共 催:中国残留日本人孤児を支援する兵庫の会

協 力:兵庫県明石市福祉事務所

プログラム:

① 健康講座

・挨拶 趙松吉 笹川同学会日本支部会長

水野浩重 中国残留日本人孤児を支援する兵庫の会事務局長

・講義「血の流れをよくして万病を消す—瘀血症の診断と治療」

袁世華 日本支部名誉会長、杏林中医薬情報研究所長(2期生)

② 血圧測定と個別健康相談

血圧測定、悩み・健康面の相談のコーナーを別々に設け、個別の健康相談を行い、参加者及び家族の健康面での病気、症状、日常生活面での不安や悩み、病院への診療、介護保険制度、医療保険制度などの相談をうけ、一人一人の話を傾聴し、その気持ちを共感することができ、アドバイス・助言を行った。

報 告:52名の対象者にアンケート配布し、回収した結果—①対象者の属性は殆どが高齢者で、女性が男性より多い。②来日20年以上の対象者が5割以上、日本語が不自由な者が8割以上。その中、中国語、日本語の文字がうまく書けない人もいて、ほとんどが日本語学習の支援を受けている。③講演会の内容はとても満足、時間の長さも良い、今後も継続してほしい。④現在の健康状態について、「多疾患を持つ人が」7割以上。⑤8割以上の人が近所との付き合いが少ない。⑥病院への受診・相談に行かれない対象者が4割以上を占め、理由としては言葉の不便さ、自分の苦痛が医療者に伝えられない、医療者に対する不信感、通訳者がいないなど。

2017年7月厚生労働省が発表した調査結果によると、中国残留邦人の平均年齢は76歳、70歳以上の高齢者は93%を超え、介護が必要な年代に達している。言葉の壁と情報・知識の不足で、本来受けられるはずの医療サービスと介護サービスなど社会資源を受けられていない現状が今回の面談で分かった。言葉が分からないから、医療・介護サービスを利用しようと思わなかったという声が聞かれた。中国残留邦人とその家族は、現在も言葉、生活習慣、健康等の面で様々な困難に直面しており、今後、引き続きの支援が不可欠だと考える。



血圧測定



日本支部参加者

3 支部学术會議

3 支部学術会議

3.1 河南・河北・山東地区交流会

概 要

開催日:2018年4月21日(土)

場 所:雅香金陵大飯店(河南省洛陽市)

実施責任者:趙傑剛 河南科技大学第一附属医院研究生科科长(8期生)

張振喜 河南省疾病予防管理センター審査官(14期生)

曹学成 済南軍区総医院主任医師(18期生)

参加者:28名 河南省・河北省・山東省在住の同学会会員

テーマ:「高齢化問題」

プログラム:

・挨拶 李忠金 笹川生同学会秘書長

本田伸吾 日中医学協会事務局長

・講演 「老人ホームのシステムの運営管理」

張 亨 徳豊利達集団副総裁(10期生)

「急性心筋梗塞患者の心理的体験」

趙傑剛 河南科技大学臨床医学院研究生处处长(8期生)

「高齢者の生活能力の評価」

田素斎 河北医科大学第二医院養老センター長(22期生)

・会員情報交流

報 告: 高齢化問題は共通の課題で参加者の関心が高かった。特定のテーマでより踏み込んだ交流を行うことで、笹川生OBの学術レベルの向上と同学会の求心力の向上を図ることができる。また、交流会の開催回数を増やし、参加者を拡大して、地域ごとの発展状況を知ることにより、更に地域住民の健康福祉に寄与できる。



2018年笹川医学奖学金冀鲁豫地区支部分会

2018年4月22日于洛阳



田素斋先生



張 亨先生



趙傑剛先生

3 支部学術会議

3.2 上海地区交流会

概 要

開催日:2018年5月26日(土)

場 所:上海スグ威鉞爾曼大酒店(上海市)

実施責任者:殷 猛 上海交通大学附属上海児童医学センター心外科主任医師(27期生)

参加者:40名 上海市在住の同学会会員

テーマ:「生命の両極に関心を寄せる～児童と老人に関心を」

プログラム:

・挨拶 李忠金 笹川生同学会秘書長(12期生)

岡田光子 日中医学協会事務局次長

・講演「更年期女性の健康管理」

朱麗萍 上海市母子保健センター長(19期生)

「老人性うつ病・不安障害の予防治療」

王継軍 上海市精神衛生センター 脳電波画像眼動作研究室主任(22期生)

「歯の健康管理は0歳から」

俞 芳 同済大学附属口腔医学院児童口腔科副教授(27期生)

「がん予防に関する知識」

薛 鵬 上海交通大学附属第1人民病院腫瘍センター主治医師(35期生)

・会員情報交流

報 告:いずれも命の誕生から終焉まで人の一生を捉えた観点から予防と健康管理を唱えており、日本における研究を発展させた先進的な取り組みについての発表で、テーマにかなっていた。参加者の関心が高く、活発な討論が行われた。



3 支部学術会議

3.3 広東地区交流会

概 要

開催日:2018年6月30日(土)

場 所:深圳大学第三附属医院(広東省深圳市)

実施責任者:王甲東 中山大学家庭医生雑誌社編集長(1期生)

丘勇超 広州中医薬大学附属第一医院泌尿男科教授(5期生)

参加者:35名 広東省在住の同学会会員

テーマ:「症状別診断の現状と対策」

専門家派遣:羽野嘉朗 在中国日本国大使館領事部・經濟部一等書記官

プログラム:

・講演「日本の病診連携・地域医療連携の現状と課題」

羽野嘉朗 在中国日本国大使館 領事部・經濟部 一等書記官

「医療改革で成長した羅湖医院の男性診療科」

李宝興 深圳市羅湖医院(深圳大学第三附属医院)泌尿男科教授(13期生)

「人間性と歴史の視点から分級診療の困難と出路についての考察」

徐武華 広州市紅十字会医院リハビリテーション学科教授(26期生)

「分級診療における民営診療所」

丘勇超 広州中医薬大学附属第一医院 泌尿男科教授(5期生)

・会員情報交流

来 賓:陳綺綺 広州市前副市長

報 告:日本に理解のある中国人医療専門家は日中医療協力を進めるにあたり極めて貴重な存在であり、地域別に集まる本交流会は、彼らに対して日中医療協力の重要性を説明できる非常に重要な機会と考える。小職の講演の際においても、単に先方のオーダーに応じて日本の政策説明をただけではなく、「知日派医療専門家」である参加者に対する協力依頼(中国人の訪日治療にあたっての中国側病院との連携依頼)も行わせて頂いた。(羽野嘉朗)



羽野嘉朗氏の講演

3 支部学術会議

3.3 吉林地区交流会

概 要

開催日:2018年7月7日(土)

場 所:吉林省南湖賓館(吉林省長春市)

実施責任者:趙樹華 吉林大学中日聯誼医院中医科教授・主任醫師(4期生)

吳龍仁 延辺大学医院副院長(20期生)

裴海成 延吉市成濟門診部院長(6期生)

参加者:33名 吉林省在住の同学会会員

テーマ:「医師と患者の関係の現状と対策」

専門家派遣:趙松吉福島医科大学先端臨床研究センター教授(19期生)

プログラム

・挨拶 趙樹華 吉林大学中日聯宜医院中医科教授(4期生)

本田伸吾 日中医学協会事務局長

李忠金 笹川生同学会秘書長(12期生)

・講演「日本の医師患者の関係の現状と対策」

趙松吉 福島県立医科大学先端臨床研究センター教授(19期生)

「医療保険と医療サービス」

張吉天 吉林大学中日聯宜医院副院長

「中国における医療者と患者の関係の現状」

吳龍仁 延辺大学附属医院教授(20期生)

「産後出血支援対策」

李 娜 吉林大学第一臨床学院産婦人科教授(25期生)

・会員情報交流

報 告:日本の医療制度の特徴と医師患者の関係についての講演を通じて、医師患者の関係の問題への対策の一助として、改善すべきことは改善し、事前防止が重要であることを伝えられたのは成果だと思う。支部交流会に参加して笹川生同学会の存在の大きさを知ったが、吉林地区の会員数から考えると参加者が少ないと感じた。主催者側からの連絡方法、取りまとめる方法等を再検討する必要があると考える。(趙松吉)



会议议程

会议时间
2018年7月7日(周六)

会议地点
吉林省南湖宾馆

会议安排

14:00 报到
14:30 赵树华教授致欢迎词
14:40 日中医学协会 事务局长本田伸吾先生致辞
14:50 同学会李忠金秘书长致辞
15:00 演讲开始

主题演讲

◆ **日本医患关系的现状与对策**
讲者: 菅川医学奖学金第19期研修生
日本福岛医科大学
赵松吉 教授

◆ **医疗保险与医疗服务**
讲者: 吉林中日联谊医院
张天夫副院长

◆ **论我国目前医患关系**
讲者: 菅川医学奖学金第20期研修生
延边大学附属医院
吴龙仁 教授

◆ **论产后出血的抢救策略**
讲者: 菅川医学奖学金第25期研修生
吉林大学第一临床学院
李娜 教授

参会同学名单

序号	姓名	单位名称	职务	专业	手机
4	赵树华	吉林大学中日联谊医院中医科	教授	中西医结合内科	
6	林德强	吉林大学口腔医院牙周病科	教授	口腔医学	
6	张雨成	延吉市成兴门诊部	教授	内分诊内科	
9	宋柏林	长春中医药大学	教授	内科	
12	史 高	长春市妇产科医院麻醉科	主任医师	麻醉学/疼痛治疗	
12	李忠金	菅川同学会	秘书长	日语	
16	金永日	吉林大学化学学院化学系	教授	无机化学	
19	赵树华	延吉市林溪医院神经内科	主任医师, 神经内科主任	神经内科	
19	金锦华	吉林省延边大学附属医院 护理教研室	副主任护师	护理学	
19	孙立波	吉林大学中日联谊医院肾内科	主任医师	肾内科	
19	廉玉杰	吉林省人民医院口腔科	主治医师	口腔科	
20	于伏巍	吉林大学第三附属医院中日联谊医院骨科	主任医师	骨科	
20	姜斯仁	延边大学医学院	主任医师	感染科	
21	张 静	吉林大学第二附属医院心血管内科	教授	心血管内科	
21	金善哲	吉林大学中日联谊医院耳鼻喉科	教授/博导	耳鼻咽喉科	
21	申 春	吉林大学纪委办公室	副处长/秘书	教育学	
22	崔英勋	延边大学医学院附属医院感染科	护师	护理	
24	张 岩	长春爱尔眼科医院激光分子中心	副教授	眼科	
24	魏红兰	吉林基础医学院基础生物化学系	副教授	微生物学	
24	邢德君	吉林省肿瘤医院内二科	主任医师	肿瘤化疗	
25	张德荣	吉林大学第三附属医院(中日联谊医院)外科	医师	护理	
25	李 娜	吉林大学第一医院妇产科	副主任医师	妇产科	
25	赵树华	长春博德医药科技有限公司	高工	天然物化学	
25	胡 敏	吉林大学口腔医院口腔颌面外科	教授	齿科矫正	
26	王慧卿	吉林大学第一医院妇产科	副教授/主任医师	妇产科	
26	孙 晓	吉林大学护理学院基础护理教研室	副教授	护理	
26	杨玉波	吉林省肿瘤医院整形科	主任医师	整形外科	
26	沈哲武	延边大学医学院	讲师/博导	基础医学	
27	崔江江	吉林大学第二临床学院基础科	讲师	药剂学	
28	张雨成	吉林大学第二附属医院外科综合办公室	副主任护师	护理	
28	李永学	延边大学附属医院消化内科	副主任医师	消化内科	
30	张清波	吉林大学中日联谊医院整形科	副教授/主任医师	整形外科	
30	郑旭光	吉林大学第一医院	主治医师	心电外科	
30	张春敏	吉林大学白求恩医学院	副教授	神经生理学	
30	张冰浩	吉林大学中日联谊医院	副主任医师	眼科	
31	孟祥林	吉林大学中日联谊医院耳鼻喉科	副教授/主任医师	耳鼻喉科	
33	魏红兰	延边大学附属医院基础生物化学系	副教授	心血管内科	

日方参会人员

本田 伸吾 (Honda Shingo)	日中医学协会	事务局局长
赵松吉 (19 期)	福岛医科大学	教授

3 支部学術会議

3.5 雲南・貴州・四川地区交流会

概 要

開催日:2018年7月14日(土)

場 所:昆明南亜風情豪生大酒店(雲南省昆明市)

実施責任者:李 松 昆明医科大学学長(8期生)

参加者:39名 雲南省、貴州省、四川省在住の同学会会員

専門家派遣:跡見裕 日中医学協会業務執行理事(杏林大学名誉学長)

テーマ:「高等医学教育と健康中国の建設」

プログラム:

・挨拶 趙 群 笹川生同学会理事長(10期生)

・講演「日本の医学教育の現状と課題」

跡見 裕 日中医学協会業務執行理事(杏林大学名誉学長)

「中国の医学教育」

趙 群 前中国医科大学学長(10期生)

「辺境の高等医学教育の改革と発展—医教協調が医学人材育成の質を高める」

李 松 昆明医科大学学長、教授(8期生)

「中国の臨床医学人材養成制度の考察」

王松靈 首都医科大学学長、教授(8期生)

・会員情報交流

報 告:交流会当日の午前中、昆明医科大学の新キャンパスを訪問し、臨床技能研修センターと図書館を見学した。研修センターにはICUや手術室など実際の臨床現場を再現した様々な研修ができるように設計しており、実習に活用されている。会議では医学教育と臨床医学人材の育成についての日中両国の課題が述べられ、活発な討論が行われた。



臨床技能研修センター



跡見裕先生の講演

3 支部学術会議

3.6 陝西・山西・甘肅地区交流会

概 要

開催日:2018年11月3日(土)

場 所:金花豪生国際大酒店(陝西省西安市)

実施責任者:李国棟 西安交通大学外語学院日本語系副教授(16期生)

参加者:25名 陝西省・山西省在住の同学会会員、外語学院修学生

テーマ:「医師の兼職と基層医療技術指導の現状と課題」

プログラム

- ・講演「三級甲医院の基層病院に対する看護管理と技術指導の実践」

康鳳英 山西医科大学看護学院研究生処副処長(29期生)

「子宮頸がん液基細胞学とhpvスクリーニング」

郭 英 西安九州医学検験所(27期生)

「アメリカの医師養成課程の紹介」

張 軍 西安交通大学医学院第二附属医院消化器内科教授(11期生)

- ・会員情報交流

報 告: 討論では一人ひとり意見を述べ、それに対して熱心な議論が起こり、活発な意見交換が行われた。締め括りに中国同学会の李忠金事務局長からの出席者に向けた、2021年の笹川同学会設立30周年記念事業(北京・人民大会堂、1千人規模の集会)計画のアナウンス、中国国家衛生健康委員会との信頼関係やパイプが太くなったことなどが紹介され、会員の充実した活動があるからこそこの様なことが可能となってきたとの激励の言葉があり、会議は和やかに終了した。



3 支部学術会議

3.7 日本支部第1回全国記念学術集会

概 要

開催日:2018年9月30日(日)

場 所:学士会館(東京都千代田区)

実施責任者:趙松吉 福島医科大学先端臨床研究センター教授(19期生)

参加者:70名 日本財団、笹川同学会本部、日本支部、第40期研究者等

テーマ:「日本の医療現場に携わっている医師・看護師・研究者からの生の声」

プログラム

総合司会:李 亜範 笹川同学会日本支部副会長(常務)(第13期)

第一部 開会式 13:00~13:30

開会挨拶:趙 松吉 笹川同学会日本支部会長、福島県立医科大学教授(第19期)

挨拶:趙 群 笹川同学会理事長、遼寧省政治協商会議常務委員(第10期)

祝 辞:吉倉和宏 日本財団常務理事

祝 辞:李 路平 中国医院学会駐会副会長

集合写真・休憩 13:30~13:40

第二部 学術総会

テーマ:日本の医療現場に携わっている医師・看護師・研究者からの生の声

Session 1 13:40~15:10

座 長:趙 松吉 福島県立医科大学教授(第19期)

講演 1:李 花 鹿児島大学病院医師(第30期)

「40代研修医のあゆみ」

講演 2:鄭 美花 医療法人社団三医会鶴川記念病院看護師(第27期)

「在宅医療の現状」

講演 3:劉 瑞芹 医療法人社団宗仁会ひまわり医院院長(第25期)

「日中医療の国際化現状—自分に取り組んできたあゆみ」

講演 4:張 曉春 梅花女子大学看護保健学部看護学科准教授(第24期)

「在日外国人看護師の異文化適応」

Session 2 15:20~17:20

座 長:安達 勇 日中医学協会副会長・理事

講演 5:謝 海棠 国際医療福祉大学保健医療学部看護学科老年看護学准教授(第21期)

「日本の超高齢社会におけるエンドライフケアの実践」

講演 6: 呉 秀賢 兵庫医科大学泌尿器科講師(第 19 期)
「前立腺がんの最新治療」

講演 7: 張 平平 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科准教授(第 18 期)
「地域高齢者が考える最期の迎え方に関する日中比較研究」

講演 8: 沈 美善 川崎本町眼科クリニック院長(第 11 期)
「緑内障の診断と治療」

講演 9: 趙 松吉 福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター先端臨床研究センター教授(第 19 期)
「福島の復興を健康面から支える最先端医療機器・技術」

閉会挨拶: 李 忠金 笹川同学会秘書長、北京雅達翻訳公司総経理(第 12 期)

第三部 情報交換会 18:00~20:00



3 支部学術会議

3.8 日本支部総会・学術セミナー

概 要

日本支部総会を開催し、2018年度の事業報告・決算報告と2019年度事業計画についての協議を行った。総会終了後、学術セミナーを開催した。

開催日:2019年3月10日(日)

場 所:TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター

実施責任者:趙松吉 福島医科大学先端臨床研究センター教授(19期生)

参加者:29名 日本在住同学会会員、安達勇日中医学協会副会長等

プログラム:

学術セミナー

座長:姚 建/呂 玉泉 笹川同学会日本支部サイエンス部門担当

山梨大学准教授(第9期)/大阪大学助教(15期)

講演 1: 在日外国人看護師の異文化適応

張 暁春 梅花女子大学看護保健学部看護学科准教授(第24期)

講演 2: レスベラトロール含有ブドウ抽出の長期投与による老化促進マウス(SAMP10)に対する
老化遅延作用

単 少傑 株式会社三協学術部次長(第21期)

講演 3: 人獣共通感染症としてのE型肝炎ウイルス

李 天成 国立感染症研究所ウイルス第二部主任研究官(第11期)

会長招待講演

座長:趙 松吉 笹川同学会日本支部会長、福島県立医科大学教授(第19期)

講演:言語表現に見られる民族性の違い

李 香善 名古屋外国語大学非常勤講師(専門分野:日本語学)

情報交換会



4 日中共同フォーラム

4 日中共同フォーラム

4.1「生活習慣病の現状と対策」フォーラム

概 要

開催日:2018年7月28日(土)

場 所:新疆ウイグル自治区人民医院

実施責任者:李南方 新疆ウイグル自治区人民医院副院长(7期生)

参加者:約230名 新疆ウイグル自治区各地域の医師

専門家派遣:津下一代 あいち健康の森健康科学総合センター長

プログラム:

挨拶

趙 群 笹川医学奨学金進修生同学会理事長、中国医科大学前学長

于 愛平 新疆ウイグル自治区人民医院院長

尾形武寿 日本財団理事長

集合写真

フォーラム

座長:李南方 新疆ウイグル自治区人民医院副院长

津下一代 あいち健康の森健康科学総合センター センター長

「日本の生活習慣病対策 政策・実践とその評価

～健康日本21・特定健診保健指導制度・糖尿病性腎症重症化予防を中心に～」

張新華 世界高血圧連盟次期主席、WHO駐中国代表処慢性病医学官吏

「中国における生活習慣病の現状」

李南方 新疆ウイグル自治区人民医院副院长(7期生)

「睡眠時無呼吸症候群と心血管疾患との重要な関係」

討論

報 告:今回、若い世代の医師が多く参加し、熱心にメモを取る姿やキラキラした目を見ることができました。「目の前の患者さんの診療に注力していて、病院の外のことを意識できていなかった」「紹介された教材を指導に使ってみたい」などの感想のほか、「マンパワーはどうしたらよいか→チーム医療で。日本では大学・学会・行政がそれぞれの目的をもって研修を実施している。」「対象者選定の基準について、高コレステロールや喫煙者はどうしているか」「住民の意識向上のためにどんなことをしているか」「評価の方法について→健診・医療データベースの活用」などの質疑がありました。今回の講演が若い医師に刺激を与え、少しでも新疆ウイグル自治区の生活習慣病対策に寄与できれば、これ以上ない喜びです。

現地を見て交流することにより、新たな視座を得ることができました。多民族国家であり言語や習慣が異なる人々の共同体である同地区における生活習慣病対策においては、共通して取り組むコアコンテンツとセグメントによって多様化できる部分を整理することが重要と思いました。(津下一代)



4 日中共同フォーラム

4.2「がん診断治療」フォーラム

概 要

開催日:2018年8月25日(土)

場 所:瀋陽北約客維景国際飯店(遼寧省瀋陽市)

実施責任者:許 順 中国医科大学第一臨床学院胸外二科主任医師(15期生)

参加者:200名 中国及び遼寧省各地域の医師

専門家派遣:堀田知光 日中医学協会理事

(国立がん研究センター名誉総長・がん研究振興財団理事長)

プログラム:

Opening 座長 張其剛 中国医科大学附属第一医院

歓迎の辞 許 順 中国医科大学附属第一医院

挨拶-病院代表 辛世傑 中国医科大学附属第一医院

挨拶-遼寧省医学会代表 徐洪斌 遼寧省医学会秘書長

挨拶-中国肺がん聯盟主席、 国家衛健委肺がん専門家グループ長

支修益 首都医科大学宣武医院

挨拶-笹川同学会会長 趙 群 中国医科大学

集合写真

Session1 座長、講評来賓 趙 群、劉懿卿、崔仲明

「中国におけるがん予防治療政策について」

喬友林 中国がん基金会副秘書長、アジア・太平洋がん予防機構(APOCP)秘書長

「日本におけるがん対策の動向」

堀田知光 国立がん研究センター名誉総長、がん研究振興財団理事長

「中国におけるがん予防治療の進展」

徐惠綿 中華医学会腫瘍分会主任委員、中国医科大学附属第一医院

Session2 座長、講評来賓 張臨友、佟 侗

「中国肺がんスクリーニングと早期診断治療計画」

支修益 首都医科大学宣武医院

「世界の胸部外科における肺がん臨床研究の分析」

姜格寧 上海胸科医院

Session3 座長、講評来賓 劉建陽、崔 鍵

「肺がんのリンパ節郭清に関するコンセンサスと論議」

張蘭軍 中山大學附属腫瘤医院

「開放性進取性のある遼寧省胸部外科学会について」

許 順 中国医科大学附属第一医院

総括 許 順 中国医科大学附属第一医院

報 告：日中共同フォーラム「がんの診断治療トップフォーラム」は日中笹川医学協力プロジェクト事業の一環として笹川医学奨学金同学会と共同で、2018年8月25日に瀋陽において遼寧省医学会第17会胸部外科学術会議との合同で開催されました。参加者は中国各地区からの胸部外科のリーダー、笹川同学会の関係者ら合わせて約200名で会場はほぼ満席でした。

講演の後にディスカッションは予定されていませんでしたが、意見交換ができれば有意義なフォーラムになったと思います。なお、終了後には主だったメンバーで懇親の場をもっていただきましたので十分に交流ができました。今回の出張で中国における医師・研究者の肺がんを中心としたがん診断や治療への意気込みとがん対策の現状に触れることができ、大変参考になりました。

(堀田知光)



国家卫生健康委办公厅关于开展2019年度 第42期中日笹川医学奖学金项目研究员 选拔工作的通知（草案）

根据国家卫生健康委员会与日本财团、日中医学协会于2017年2月17日签署的《中日笹川医学合作项目协议书》，2019年度将选派第42期中日笹川医学奖学金项目研究员赴日开展研究。项目包括共同研究型 and 攻读学位型，共同研究型即针对活跃在中国医学领域、拥有高度专业知识的人才在日本的大学、医院及研究所等与日本研究人员或研究机构共同开展的研究活动进行资助。攻读学位型即针对中国年轻研究员赴日本的大学、医院、研究所等开展研究并取得日本博士学位的活动进行资助。

根据两种类型，现制定招生简章如下：

一、选拔范围

共同研究型：

被推荐人员须为以下单位的正式工作人员。

- （一）各省（区、市）卫生健康委员会及直属的医疗、科研、预防、保健等单位；
- （二）各直辖市的区级医疗卫生机构；
- （三）省会城市的市级医疗、科研、预防、保健等单位；
- （四）高等院校、医学专科学校（医学及日语专业）；
- （五）国家卫生健康委员会的直属和联系单位；
- （六）联勤保障部队；
- （七）有关部、委、局直属的医药卫生机构；
- （八）合资、民营的三甲医院及其附属科研机构；
- （九）国家市场监督管理总局

攻读学位型：

被推荐人员须为以下单位的正式工作人员。

（要求同上）

二、被推荐人员资格条件

共同研究型：

- （一）1970年4月1日以后出生。
- （二）职称：副教授
- （三）特别优秀者年龄可适当放宽至60周岁（近5年发表论文的影响因子累计达10分以上、或单篇论文影响因子在5分以上、该学科带头人、长江学者、国家级科技成果奖二等奖以上获得者等）；特别优秀的讲师也可申请（近5年内发表论文的影响因子累计达20分以上、以第一作者或通讯作者身份发表论文的影响因子在5分以上）、国家级科技成果奖二等奖以上获得者、国务院杰出青年称号获得者等）。
- （四）拥有专业论文、论著、科研成果等。
- （五）报名时提交科研成果（英语论文清单：作者姓名、题目、学术刊物名称、卷/号/页数等，并另附各自的影响因子、引文索引等清单、拥有专业论文、论著、科研成果等）。
- （六）英文或日文可与合作伙伴顺畅交流和沟通，并可发表英文论文。
- （七）研究目的明确，能顺利开展研究活动，愿为提高中国医疗水平作贡献。
- （八）正在与日方开展共同研究者
- （九）所在单位同意派出。
- （十）报名时取得日方接收单位（共同研究者）的同意函（可自己联系、也可通过日中医学协会取得同意接收函）。

攻读学位型：

- （一）1980年4月1日以后出生。
- （二）中国教育部承认的本科毕业生、硕士生及在读博士生；在日本的中国籍研究者（以学成回国为前提条件）。
- （三）报名时能提交科研成果（英语论文清单：作者姓

名、题目、学术刊物名称、卷/号/页数等，并另附各自的IF、引文索引等清单。)

(四) 英语IELTS6.0、TOEFL iBT80 (TOEFL PBT550) 以上或日语能力考试(JLPT) N2级以上者，同时满足以上两个条件者优先选拔。

(五) 有赴日本研究的愿望，研究目的明确，能顺利开展研究活动，愿为提高中国医疗水平做出贡献。

(六) 报名时已取得日方指导老师的同意接收函(可自己联系、也可通过日中医学协会取得同意接收函)。

三、派遣时间

共同研究型：6个月(最短3个月)

攻读学位型：2年

四、费用

共同研究型：

在日期间的生活费和住宿费(20万日元/月)及科研费由奖学金承担；被推荐人1次往返日本国际旅费、海外旅行伤害保险等费用由派出单位承担，费用标准由派出单位自行规定。

攻读学位型：

在日期间的生活费和住宿费(10万日元/月)及科研费由奖学金承担；被推荐人面试时的差旅费、出国前的语言培训费(含住宿和交通)以及1次往返日本的国际旅费、海外旅行伤害保险等由派出单位承担，费用标准由派出单位自行规定。

五、其他要求

(一) 优先推荐国家临床重点专科建设项目所在单位人员，承担或参与重点项目的学科带头人、业务骨干，可成为各个学科领军人物的中青年专家。

(二) 优先派遣以下领域人员：1.再生医学2.机器人手术3.微创手术。

(三) 被推荐人员应当符合所在学位报考在职学历教育和访问学者的有关规定。

(四) 应当充分考虑被推荐人员所在科室的科研和工作条件及其回国后的工作安排，保证被推荐人员在完成学习任务后能按期回国服务。

(五) 被录取后，无特殊情况不可放弃。

六、选拔程序

共同研究型：

(一) 由项目办公室审核申报者的申报材料是否齐全。

(二) 由项目专家评审委员会对申报材料进行专业评审并最终确定20名人选。

(三) 研究员可根据各自安排在2020年4月1日后赴日即可，为参加日方为研究员举办的欢迎会和交流会，2020年的9月份研究员须留在日本。

攻读学位型：

(一) 由项目办公室审核申报者的申报材料是否齐全。

(二) 由项目专家评审委员会对申请人进行面试(专业和外语)，最终确定10名人选。

(三) 于2020年4月初赴日。

七、申请材料填写及报送要求

各省级卫生健康委行政部门请在2019年3月15日前，将本通知复印件印发给各单位及被推荐人员本人。被推荐人员收到通知后，可通过个人渠道或奖学金项目渠道了解适合本人的研究专业，联系在日本的研究单位，并取得初步同意接收函(格式不限，电子邮件、信函均可)。

收到接收函后，按照《填写方法》填写后附推荐表和申请书，并准备申请所需的相关材料，所有材料一式两份，于2019年9月1日前寄至笹川医学奖学金项目办公室，并同时申请书的电子版及所有相关材料扫描件发送邮件至sc1000@vip.163.com。申请书、推荐表和填写方法请从www.sskw.net下载。

申请材料逾期未报或缺项、少项、不全者不予评审。

联系人：笹川医学奖学金项目办公室 吴久利、宋洋

电话：010-62256266；15901208067

传真：010-62256266

邮件：sc1000@vip.163.com

地址：北京市西直门北大街联慧路101号西晴公寓C座0248室

邮编：100082

网址：http://www.sskw.net

2018年筵川医学奖学金同学会 冀鲁豫分会学术研讨会



■ 河南科技大学临床医学院研究生处处长赵杰刚（8期生）在讲演



■ 河北医科大学第二医院养老中心主任田素斋（22期生）在讲演



■ 燕达国际医院院长张亨（10期生）在讲演

2018年4月21日由筵川医学奖学金同学会、日中医学协会主办的筵川医学奖学金同学会冀鲁豫地区分会在千年帝都、牡丹花城洛阳召开，本次会议获得了国家卫生健康委、日本财团的大力支持。来自冀鲁豫地区的筵川生门济济一堂，就养老问题开展了热烈的讨论。

会议有幸邀请到的嘉宾有：日中医学协会事务局长本田伸吾先生，筵川医学奖学金同学会秘书长李忠金，燕达国际健康城常务副总裁，燕达国际医院院长张亨教

授（10期生），河南科技大学临床医学院研究生处处长赵杰刚（22期生），河北医科大学第二医院养老中心主任田素斋（22期生）等。参会的人员包括来自北京、山东和河南等地的筵川生。

本次会议由第8期筵川医学奖学金获得者、第8期筵川医学奖学金特别研究者赵杰刚博士主持，学生会秘书长李忠金老师致开场白后，事务局长本田伸吾先生致辞，勉励大家作为筵川生，不忘去日本留学的初心，继续在自己的岗位上努力奋

进。会上，燕达国际健康城常务副总裁张亨做了《关于养老院系统运营管理》的主题演讲，结合日本的养老模式，根据中国的特点，构建自己的颐养结合模式，推进对病人、养老机构的老人以及空巢老人的管理。为中国的养老管理提供了参考。随后，赵杰刚博士介绍了科研成果，从临床角度对《急性心肌梗死患者心理体验》进行了质性的报告，给予听众来自患者角度的观点，让人耳目一新，感受到患者的切身感受，为临床医务工作者与患者的沟通交流提供参考，引起了在场所有筵川生的共鸣。最后，田素斋博士从生命意识、生命周期与生命教育和临终关怀（安宁疗护）角度阐述了生命关怀的内容，为了让大家重新认识身体和心灵、痛苦和疾病，以及生命和死亡，学会正确认识，感知并勇敢面对死亡，珍惜生命，珍爱家人，敬畏生命，热爱生命，找准人生目标。

主题演讲结束后，参会人员进行了自我介绍，参会者发言踊跃，会后晚宴沟通活跃，笑声连连，会议气氛十分热烈有好几个参会者感慨：“期待这样的盛会能多多举办，给大家提供交流学习的平台。”

会议选择会期正值牡丹花盛开时节，更是为会议的圆满召开增添了一份色彩。



■ 参会成员合影留念

2018年筵川医学奖学金同学会 上海地区分会学术研讨会



■ 日中医学协会事务局副局长冈田光子在致辞

2018年5月26日下午，上海地区筵川医学奖学金项目在国际大都会上海盛大召开，同学们欢聚一堂，进行交流学术，共叙友情。

本次交流活动由筵川医学奖学金同学会常务理事殷猛教授（27期生）主持，同学会秘书长李忠金老师、日中医学协会嘉宾日中医学协会事务局副局长冈田光子分别做了讲话。冈田光子女士表达了日本财



■ 筵川医学奖学金同学会常务理事殷猛教授（27期生）在主持会议

团对同学会的期待，同时也提出今后在中国怎样完善医疗体制、如何正确充分利用我们这个资源宝库，也是日后需要完善的问题。李忠金秘书长表示会尽一切努力将同学会的工作做的更好，为同学们服务，并就今后如何进一步开展工作及具体工作内容做了大概的报告。

本次以“关注生命的两级——关爱儿童和老人”为主题，进行了一次深刻的讨

论！老人和儿童是我国政府及医疗人员共同关注的话题，参与度高，反响热烈，同学们纷纷各抒己见，观点全面，有碰撞，更有火花。

本次会议受邀演讲人员有上海市妇幼保健中心主任 主任医师 博士生导师朱丽萍教授（19期生）、上海市精神卫生中心脑电影像眼动研究室主任 主任医师 博士生导师王继军教授（22期生）、同济大学附属口腔医学院儿童口腔科 副主任医师俞芳教授、上海交通大学附属第一人民医院肿瘤中心的薛鹏教授（35期生），分别就更年期妇女的健康、老年抑郁焦虑症、儿童牙齿现状、肿瘤的预防等各方面问题发表了精彩的演讲，观点高屋建瓴、发人深省。

在会上就有老师提出希望能有机会就科研方法改进、增加科研横向交流等深入沟通交流，共同提高学术水平，并提高同学会的凝聚力。

更有老师觉得一年一次的会议交流频率稍低，希望能增加交流次数，扩大参会的范围，了解国内不同地区的发展，可获得更好的科普效果，造福广大群众。



■ 参会成员合影留念

2018年筵川医学奖学金同学会 广东海南地区分会学术研讨会



■ 日本驻华大使馆经济部羽野嘉朗先生在讲演

2018年6月30日在深圳市罗湖医院（深圳大学第三附属医院）会议大厅召开了筵川医学奖学金同学会广东海南地区分会学术研讨会，本次由筵川医学奖学金同学会、日中医学协会主办，筵川医学奖学金同学会广东地区分会承办并获得了国家卫生健康委和日本财团的大力支持。来自广东地区的筵川同道们就当下医者最为关心的分级诊疗，开展了热烈的讨论。

会议有幸邀请到的日方嘉宾有：日本驻华大使馆经济部羽野嘉朗先生，日中医学协会事務局茅野芽衣子、李晓霞女士等。中方则有广州市前副市长陈绮绮、筵川医学奖学金同学会秘书长李忠金先生等。参会的人员包括来自广东、海南等地的筵川生。

会议由筵川医学奖学金同学会秘书长李忠金先生主持，日本驻华大使馆经济部羽野嘉朗先生以及日中医学协会事務局茅野芽衣子女士分别致开场辞。随后由羽野嘉朗先生做专题报告，题目为《日本的疾病诊疗区域合作的现状与课题》。羽野嘉朗先生用详细的图表和数据，向大家介绍了日本老龄化的情况以及中国老龄化

的走势和日本历史上的情况最为接近。继而介绍日本医疗改革的起因、具体措施和成果。日本的疾病诊疗区域合作的案例分享，日本国民是如何进行日常医疗、住院医疗及病后疗养等各个环节的衔接。日本政府采取的应对措施也有很多可以让中国



■ 广州中医药大学第一附属医院丘勇超教授（5期生）在讲演

值得借鉴的地方。

随后，罗湖医院泌尿科主任李宝兴教授（13期生）作了《医改中成长起来的罗湖医院男科》的演讲。罗湖医改已经是全国分级诊疗的示范点之一，真正让居民在家庭医生、社康中心、医院之间，根据需求进行分级诊疗。罗湖模式走出了创新和自己的特色。早诊断、早发现、早干预，使居民的生存质量、生活质量更好，生命周期更长，是新时代医疗工作者奋斗的目标。罗湖正在打造全社会、全方位、全生命周期的家庭健康服务。在场的同学都对这个试点改造赞口不绝。

广州市红十字会医院徐武华教授（26期生）分享了《从人性与历史的角度洞观分级诊疗的困窘与出路》。徐教授以心理学、历史、文化的角度描述分级诊疗蜕变

下医生的转变和处境。这引发了在场的同行们的阵阵笑声。他以实际的案例和视觉呈现了在不同的角度下，医改的一些焦点问题和存在的困难。这也引发了大家的沉思。

广州中医药大学第一附属医院丘勇超教授（5期生）以《分级诊疗中的民营诊所》为演讲题目，分析了目前中国医疗体系的现状和未来发展趋势，结合自己本人退休后与同事一起创办木棉花医生团队和专科诊所的经历，生动活泼并贴近地气地讲述了自己本人从医科大学附属医院退休后二次创业酸甜苦辣和感悟，总结出一些退休后再次创业和在职医生多点执业



■ 罗湖医院泌尿科主任李宝兴教授（13期生）在讲演的

的经验体会，引起与会者的兴趣和共鸣。丘勇超教授指出目前以大医院退休主任医师（教授）和在职高年资医师多点执业为主力军的民营诊所已经成为中国分级诊疗体系中不可或缺的部分，同时也改变了以前人们对民营诊所的认知。丘教授的创业经历引发了同行们的阵阵掌声。我们已经看到了医疗集团四面开花，但成功经验鲜少，丘教授的分享无疑带给了我们更多的思维的启迪和鼓励！

本次同学会会议在热烈的讨论气氛中，分级诊疗是受到全体医疗工作人员共同关注的话题，参与度高，反响热烈。大家都认同分级诊疗是一个目前同行最关注的热点，明年，这个热点应该更火热！

会议形式采用沙龙方式，同学之间的交流更密切、更自由、参与度更高。邀请人员兼顾各层次，从体制内高级官员到体制外医改先锋，观点全面，有碰撞，更有火花。



■ 参会成员合影留念

2018年釜川医学奖学金同学会 吉林地区分会学术研讨会



■ 参会人员合影留念

由釜川医学奖学金同学会、日中医学协会主办的2018年釜川医学奖学金同学会吉林地区分会学术研讨会于2018年7月7日在中国东北地区中心城市之一、我国重要的工业基地、国家历史文化名城和全国综合交通枢纽长春召开，吉林地区分会的同学会成员纷纷踊跃参加。

会议首先由同学会赵群理事长，李忠金秘书长，同学会常务理事赵树华教授（4期生），日中医学协会事务局长本田伸吾先生致辞。吉林大学中日联谊医院医疗副院长张天夫教授作了有关中国医疗保险服务的专题报告，吉林大学第一临床学

院妇产科李娜教授（25期生）对产后出血的抢救策略，延边大学附属医院吴龙仁教授（20期生），日本福岛医科大学赵松吉教授就中国和日本的医疗关系现状做了专题报告。

张天夫副院长详细介绍了我国当前的医疗保险体制和运作方式方法，分析了医疗投入和医疗支出的矛盾，强调了目前分级诊疗的重大意义；李娜教授的专题讲座专业性强，用实际病例体现了大医情怀；吴龙仁教授得报告生动活泼，举证鲜明，用数据和事实说话，列举了当前医患矛盾的突出点，问题原因和解决建议，引发了同学们的热烈讨论。赵松吉教授介绍了日本各级医院医疗条件差异的缩小是日本平均医疗质量位于世界前列的重要原因，分级诊疗，保险报销比例等许多方面值得我们学习。最后，每位同学将自己回国后的主要工作成绩向大家做了简要汇报。

本次研讨会主题明确，同学们积极参加，讨论热烈，增加了同学们对中外医疗体制的进一步认识，也对中日医疗保险和



■ 同学会赵群理事长（10期生）在会上致辞

医疗服务有了更深入的了解，为提高我国的医疗服务质量有重要意义。同学们均希望今后能多举办类似的研讨会，增加知识点，增进同学间的了解和友谊。



■ 同学会常务理事赵树华教授（4期生）在主持会议



■ 日本福岛医科大学赵松吉教授（19期生）在讲演

2018年笹川医学奖学金同学会 西南地区分会学术研讨会

昆明，享“春城”之美誉，云南省省会，中国面向东南亚、南亚开放的门户城市，国家历史文化名城。是中国重要的旅游、商贸城市，西部地区重要的中心城市之一。在2018年7月14日笹川生们欢聚到这个美丽的城市，召开了2018年笹川医学奖学金同学会西南地区分会学术研讨会。

本次会议由笹川医学奖学金第21期生李艳主持，笹川医学奖学金同学会理事长赵群教授及日本杏林大学名誉校长跡見裕先生分别发表致辞。在致辞中跡見裕先生表示笹川医学奖学金这个交流项目做的非常好取得了丰硕的成果，也对中日的学者医生表达了衷心的祝愿。赵群理事长在致辞中回忆了笹川医学奖学金项目过去30年

经历的风风雨雨同时展望了同学会的美好未来，对参会的笹川生回国后取得的成就给予了高度的赞扬，并对在座的每一位付出的努力于贡献表示衷心的感谢！

习近平总书记指出没有全民健康就没有全面小康，健康中国建设已然成为国家战略并全面展开，医学教育为健康国家建设提供人才支撑、智力支撑，对于我们国家建设尤为重要，为响应国家号召故本次会议主题设为“高等医学教育与健康中国建设”，分享来自于日本及中国的医学教育经验，分析存在的问题，探讨医学教育的改革发展。

中国医科大学赵群校长谈到了中国的医学教育、首都医科大学王松灵校长（8

期生）谈了边疆高等医学教育改革发展、昆明医科大学李松校长（24期生）探讨了我国临床医学人才培养体系的思考、日本杏林大学名誉校长跡見裕先生说到了日本医学教育的现状及存在的问题，几位校长大咖分别就这些话题做了精彩的报告和演讲，思想之深，境界之高，让在座的每一位都感到不虚此行。

参会的笹川生们来自云南、重庆及四川地区，大家针对高等医学教育畅所欲言，展开了激烈的讨论，现场气氛热烈。此次会谈群英荟萃，参会范围囊括2期到40期生，在座的老友新朋再次相聚，不仅没有陌生感，反而在回忆赴日留学的那段美好回忆中更加深了友谊。



■ 日本杏林大学名誉校长跡見裕先生在讲演



■ 同学会赵群理事长（10期生）在讲演



■ 昆明医科大学李松校长（24期生）在讲演



■ 首都医科大学王松灵校长（8期生）在讲演



■ 参会成员合影留念

2018年笹川医学奖学金同学会 陕甘宁晋地区分会学术研讨会



11月3日下午，中日笹川医学奖学金同学会陕甘宁晋地区学术研讨会在西安举行，来自陕西、甘肃、山西等地的笹川生，以及西安交大外国语学院MTI日语口译专业2018级全体研究生共30余人参加，笹川医学奖学金同学会秘书长李忠金，日中医学协会事务局长本田伸吾先生，事务局长助理寄兼良辅先生应邀出席会议。研讨会由笹川生同学会常务理事、第16期笹川生、西安交大外国语学院硕士生导师

李国栋副教授主持。本次研讨会的主题是“医生兼职及基层医疗技术指导的现状与存在的问题”，山西医科大学第一医院康凤英主任护师（29期生）、九州医学检验所郭英教授（27期生）、西安交通大学医学院第二附属医院张军教授（31期生）分别作学术报告。西安交大外国语学院MTI日语口译专业研究生承担了日本专家的陪同翻译、大会发言的部分翻译任务。

中日笹川医学交流项目已实施30多

年，为我国培养了一大批优秀的医疗卫生人才，为加强中日医疗卫生领域的交流与合作发挥了很大的促进作用。中日笹川医学交流项目西安地区学术研讨会每年举办一次，旨在为笹川生提供一个相互学习与交流的平台。

日中医学协会事务局长本田伸吾先生对这次研讨会的成功举办给予很高的评价，他说通过大会发言和讨论，大家对会议主题有了进一步的认识，每个人都能充分发表意见，会议达到了预期的目的。中日笹川医学奖学金同学会李忠金秘书长总结了同学会的工作，他说同学会在国家卫生健康委员会国际合作司的领导下开展工作，同时，也得到日本财团、日中医学协会的大力支持，中日笹川医学交流项目在中日学者共同研究、赴日攻读博士学位等方面将进一步扩大资助范围。



■ 参会成员合影留念

国家卫生健康委办公厅关于开展2019年度 第42期中日笹川医学奖学金项目研究员 选拔工作的通知

根据国家卫生健康委员会与日本财团、日中医学协会于2017年2月17日签署的《中日笹川医学合作项目协议书》，2019年度将选派第42期中日笹川医学奖学金项目研究员赴日开展研究。项目包括共同研究型 and 攻读学位型，共同研究型即针对活跃在中国医学领域、拥有高度专业知识的人才在日本的大学、医院及研究所等与日本研究人员或研究机构共同开展的研究活动进行资助。攻读学位型即针对中国年轻研究员赴日本的大学、医院、研究所等开展研究并取得日本博士学位的活动进行资助。

根据两种类型，现制定招生简章如下：

一、选拔范围

共同研究型：

被推荐人员须为以下单位的正式工作人员。

- (一) 各省（区、市）卫生健康委员会及直属的医疗、科研、预防、保健等单位；
- (二) 各直辖市的区级医疗卫生机构；
- (三) 省会城市的市级医疗、科研、预防、保健等单位；
- (四) 高等院校、医学专科学校(医学及日语专业)；
- (五) 国家卫生健康委员会的直属和联系单位；
- (六) 联勤保障部队；
- (七) 有关部、委、局直属的医药卫生机构；
- (八) 合资、民营的三甲医院及其附属科研机构；
- (九) 国家市场监督管理总局

攻读学位型：

被推荐人员须为以下单位的正式工作人员。

(要求同上)

二、被推荐人员资格条件

共同研究型：

- (一) 1970年4月1日以后出生。
- (二) 职称：教授
- (三) 特别优秀者年龄可适当放宽至60周岁（近5年发表论文的影响因子累计达10分以上、或单篇论文影响因子在5分以上、该学科带头人、长江学者、国家级科技成果奖二等奖以上获得者等）；特别优秀的副教授、讲师也可申请（近5年内发表论文的影响因子累计达20分以上、以第一作者或通讯作者身份发表论文的影响因子在5分以上、国家级科技成果奖二等奖以上获得者、国务院杰出青年称号获得者等）。
- (四) 拥有专业论文、论著、科研成果等。
- (五) 报名时提交科研成果（英语论文清单：作者姓名、题目、学术刊物名称、卷/号/页数等，并另附各自的影响因子、引文索引等清单、拥有专业论文、论著、科研成果等）。
- (六) 英文或日文可与合作伙伴顺畅交流和沟通，并可发表英文论文。
- (七) 研究目的明确，能顺利开展研究活动，愿为提高中国医疗水平作贡献。
- (八) 正在与日方开展共同研究者
- (九) 所在单位同意派出。
- (十) 报名时取得日方接收单位（共同研究者）的同意函（可自己联系、也可通过日中医学协会取得同意接收函）。

攻读学位型：

- (一) 1980年4月1日以后出生。
- (二) 中国教育部承认的本科毕业生、硕士生及

在读博士生；在日本的中国籍研究者（以学成回国为前提条件）。

（三）报名时能提交科研成果（英语论文清单：作者姓名、题目、学术刊物名称、卷/号/页数等，并另附各自的IF、引文索引等清单。）

（四）英语IELTS6.0、TOEFL iBT80 (TOEFL PBT550)以上或日语能力考试（JLPT）N2级以上者，同时满足以上两个条件者优先选拔。

（五）有赴日本研究的愿望，研究目的明确，能顺利开展研究活动，愿为提高中国医疗水平做出贡献。

（六）报名时已取得日方指导老师的同意接收函（可自己联系、也可通过日中医学协会取得同意接收函）。

三、派遣时间

共同研究型：6个月（最短3个月）

攻读学位型：2年

四、费用

共同研究型：

在日期间的生活费和住宿费（20万日元/月）及科研费由奖学金承担；被推荐人1次往返日本国际旅费、海外旅行伤害保险等费用由派出单位承担，费用标准由派出单位自行规定。

攻读学位型：

在日期间的生活费和住宿费（10万日元/月）及科研费由奖学金承担；被推荐人面试时的差旅费、出国前的语言培训费（含住宿和交通）以及1次往返日本的国际旅费、海外旅行伤害保险等由派出单位承担，费用标准由派出单位自行规定。

五、其他要求

（一）优先推荐省部共建院校、国家临床重点专科建设项目所在单位人员，承担或参与重点项目的学科带头人、业务骨干，可成为各个学科领军人物的中青年专家。

（二）优先派遣以下领域人员：1.再生医学2.机器人手术3.微创手术。

（三）被推荐人员应当符合所在学位报考在职学历教育和访问学者的有关规定。

（四）应当充分考虑被推荐人员所在科室的科研和工作条件及其回国后的工作安排，保证被推荐人员在完成学习任务后能按期回国服务。

（五）被录取后，无特殊情况不可放弃。

六、选拔程序

共同研究型：

（一）由项目办公室审核申报者的申报材料是否齐全。

（二）由项目专家评审委员会对申报材料进行专业评审并最终确定20名人选。

（三）研究员可根据各自安排在2020年4月1日后赴日即可，为参加日方为研究员举办的欢迎会和交流会，2020年的9月份研究员须留在日本。

攻读学位型：

（一）由项目办公室审核申报者的申报材料是否齐全。

（二）由项目专家评审委员会对申请人进行面试（专业和外语），最终确定10名人选。

（三）于2020年4月初赴日。

七、申请材料填写及报送要求

各省级卫生健康委行政部门请在2019年3月15日前，将本通知复印件印发给各单位及被推荐人员本人。被推荐人员收到通知后，可通过个人渠道或奖学金项目渠道了解适合本人的研究专业，联系在日本的研究单位，并取得初步同意接收函（格式不限，电子邮件、信函均可）。收到接收函后，按照《填写方法》填写后附推荐表和申请书，并准备申请所需的相关材料，所有材料一式两份，于2019年9月1日前寄至笹川医学奖学金项目办公室，并同时将申请书的电子版及所有相关材料扫描件发送邮件至sc1000@vip.163.com。申请书、推荐表和填写方法请从www.sskw.net下载。申请材料逾期未报或缺项、少项、不全者不予评审。

联系人：笹川医学奖学金项目办公室 吴久利、宋洋

电话：010-62256266；15901208067

传真：010-62256266

邮件：sc1000@vip.163.com

地址：北京市西直门北大街联慧路101号西晴公寓C座0248室

邮编：100082

网址：http://www.sskw.net

2018年笹川医学奖学金同学会生活习惯病的现状与对策高峰论坛



■ 生活习惯病的现状与对策高峰论坛隆重召开

由笹川医学奖学金同学会、日中医学协会主办，新疆维吾尔自治区人民医院高血压中心承办的2018年笹川医学奖学金同学会生活习惯病的现状与对策高峰论坛于2018年7月28日在新疆维吾尔自治区人民医院八楼学术厅隆重召开并取得圆满成功。笹川同学会理事长、中国医科大学原校长赵群教授、日本财团理事长尾形武寿先生一行、新疆维吾尔自治区卫生计生委党组副书记彭永、新疆维吾尔自治区人民医院党委副书记关爱军出席并致辞和讲话，会议由新疆维吾尔自治区人民医院副院长李南方主持。

笹川同学会理事长、中国医科大学原校长赵群教授代表笹川同学会致辞，赵群教授首先介绍了一下笹川同学会由来和发展、介绍笹川同学会的组成，也介绍了此次举办高峰论坛的背景和宗旨，旨在通过这类学术活动增强对慢病的认识和管理，最后对本届大会的承办方新疆维吾尔自治区人民医院表示衷心的感谢！对上级领导部门自治区卫生计生委的支持表示由衷的谢意！

最后向与会参加的来自全疆各地赴日200余名医师表示诚挚的问候和殷切的希望，希望通过这样的论坛拉近日中两国学术界的交流与学习，为更好的认识和管理生活习惯病作出积极的努力！

接下来，彭永副书记对本届会议主办方日本财团理事长尾形武寿先生一行7位外籍来宾和国内外讲者们的到来表示热烈的欢迎和诚挚的问候！彭永书记说，中日民间学术组织在生活习惯病的现状和防治对策上为中日搭建了一个很好的学习、交流和讨论的平台。笹川医学奖学金多年来资助了多名中国赴日留学生，帮助他们完成学业，这些人才回国后，都成为了各行各业的精英，为祖国的发展做出了贡献。彭永副书记对到场两百余名来自全疆各地的学员做出了指示，机会难得，希望大家认真听、认真学。

李南方副院长（7期生）也提到生活习惯病是长期形成而对健康有害的行为习惯，严重影响着人民的身心健康，而生活



■ 同学会赵群理事长（10期生）在会上致辞



■ 日本财团理事长尾形武寿先生在会上致辞

习惯病是可以健康管理有效地预防，从源头上降低慢性病危险因素、降低疾病的发生、发展，最终减少疾病所导致的严重后果。本届大会具有重要的意义！

这次高峰论坛，秉承交流、合作、学习、互鉴的理念，中日授课专家分别就日本生活常见病现状和治疗和中国慢性病流行现状等展开专题讲演和激烈的讨论，解读了生活习惯病的现状，积极探讨了防治对策，在慢病管理方面为我区提供了一次宝贵的学习和交流机会。



■ 参会成员合影留念



■ 日中医学协会事务局长本田伸吾先生、冈田光子及许顺教授（15期生）在聆听演讲

2018年中日釜川医学奖学金同学会 肿瘤防治与对策高峰论坛



■ 参会成员合影留念



■ 日中医学协会事务局长本田伸吾先生、日本国癌研究中心的堀田知光教授参加会议



■ 中日教授参会合影留念



■ 同学会赵群理事长（10期生）在会上致辞

中日釜川医学奖学金同学会肿瘤防治与对策高峰论坛于2018年8月25日在沈阳北约客维景国际大酒店会议中心隆重召开。

本次大会吸引了日本的专家学者和来自全国各地的胸外科医护人员共200余名到场参会。会议紧紧围绕国内外肿瘤防治和对策、胸外科和肺癌防治领域的发展、共识与争议、中国胸外科规范诊疗“千人计划”培训项目三方面内容进行，为与会的专家、同道奉献了一场丰富的学术盛宴！

会议开幕式由大会主席、辽宁省医学会胸外科分会主任委员、中国医科大学附属第一医院许顺教授（15期生），国家卫健委《中国原发性肺癌诊疗规范》专家组组长、中国胸外科肺癌联盟主席支修益教授，釜川同学会理事长、原中国医科大学校长赵群教授，辽宁省医学会徐洪斌秘书

长，分别致辞。

进入21世纪以来，恶性肿瘤的发病率和死亡率呈显著性增高，恶性肿瘤已经成为严重威胁人类健康的最危险杀手之一。大会隆重邀请了日本国癌研究中心的堀田知光教授，WHO总干事癌症防治专家组成员、亚太肺癌预防组织秘书长（APOCP）乔友林教授、中国医大第一医院、中华医学会肿瘤分会主任委员徐惠绵教授，分别从国内外恶性肿瘤的防治及对策方面进行精彩的学术报告。

众所周知，肺癌在恶性肿瘤中是增长最快的肿瘤，也是胸外科最为关注的恶性肿瘤。为此，中日釜川医学奖学金同学会肿瘤防治与对策高峰论坛非常荣幸邀请到国家卫健委《中国原发性肺癌诊疗规范》专家组组长、中国胸外科肺癌联盟主席、中国控制吸烟协会副会长、中国医促会肺癌预防与控制分会主任委员、首都医科大

学宣武医院首席专家支修益教授，上海肺科医院胸外科主任、上海市医学会胸外科分会主任委员、中华医学会胸心血管外科学分会常委姜格宁教授，CLCU华南胸外科肺癌联盟主席、中山大学肿瘤医院胸外科主任张兰军教授，分别从肺癌筛查和早诊早治、国际胸外科的临床研究、肺癌淋巴结清扫的共识与争议等方面做精彩的经验分享！

最后，大会主席许顺教授对大会进行了总结性发言，并对各位专家的精彩分享、对远道而来的日本专家友人和省内外各位胸外同仁的积极参与和支持表示了由衷感谢！希望大家戮力同心，共同商讨肺癌诊治的精准之路，更好地为广大胸外患者服务，更好地推动辽宁省以及我国胸外科事业的发展！2018年中日釜川医学奖学金同学会肿瘤防治与对策高峰论坛在热烈的学术氛围中圆满落下帷幕。

笹川医学奖学金项目第40期 (学位攻读型) 欢迎仪式



■ 笹川同学会理事长 赵群先生致辞



■ 日中医学协会会长高久史麿先生为每位研究生颁发了认定证书



■ 日中医学协会理事长 小川秀兴先生致辞

2018年4月4日，笹川医学奖学金项目第40期（学位取得型）的10位研究生赴日。4月5日，日方举行了欢迎仪式及欢迎晚餐会。

笹川医学奖学金项目自1986年中华人民共和国卫生部（现中国国家卫生健康委员会）与笹川纪念保健协力财团、日中医学协会三方签订缔结以来，第一次与第二次各10年，第三次与第四次各5年，共计30年间，为中国医学、医疗领域培养了两千余名人才，提高了中国理疗卫生水平，并通过医学医疗领域的交流，为促进中日两国的相互理解做出了贡献。

为适应中国经济与科学技术的发展，适应当前中国社会的医疗状况，我们于2017年在北京签订了中日笹川医学合作项目第五次制度协议书。第五次制度是基于之前的“在日一年研修”的项目而制定的。由取得博士学位为目的的“学位取得型”（每年招募10名）和中日高水平医疗共同研究（每年招募20名）为目的的“共同研究型”两部分组成。

第40期（学位取得型）的10位研究生们表示，作为新项目的先驱者，为取得博士学位而努力。研究生的指导教官（教官代理）们在百忙中出席欢迎仪式，



■ 笹川生代表孙长博在会上发表感言



■ 日本财团理事长 尾形武寿先生致辞



■ 40期笹川生与教授合影留念

并给与研究生们殷切的祝福。

日本财团理事长尾形武寿先生与会介绍了第五次新项目建立的经纬。日中医学协会理事长小川秀兴先生和笹川同学会理事长赵群先生致辞，对每位研究生给与了殷切的希望与鼓励。笹川纪念保健协力财团首席顾问纪伊国献三先生作为直接参与奖学金制度建立的一员，向大家回忆了30年前奖学金制度建立初期时的背景和渡过的种种难关。驻日中国大使馆的陈喆二等秘书也代表大使馆给与了亲切祝辞。

中日笹川医学奖学金项目第40期 (共同研究型) 研究员交流会



■ 日本财团理事长 尾形武寿先生致辞



■ 笹川同学会赵群理事长在致辞

2018年9月27日下午，第40期研究员作为中日笹川医学奖学金项目第五次制度第一期研究员在日本财团召开了研究员交流会和晚宴。

共同研究型研究员20名与日方共同研究员一同参加了本次交流会，并就共同研究的概要和进展做以介绍。日本财团、日中医学协会、笹川同学会、来宾及第40期攻读学位型10名研究员共计100名出席了本次交流会。

研究报告前，由作为实施单位的日中医学协会小川秀兴理事长、笹川同学会赵群理事长、日本财团尾形武寿理事长及笹川纪念保健协力财团纪伊国献三最高顾问

就第五次制度的实施意义做以说明，表达了对研究成果的期待并鼓励了在座的所有研究员。特别是赵群理事长提到第40期共同研究型研究员20名中有3名以前作为笹川医学奖学金项目研究员两次赴日（第二次是作为特别研究员），本次作为共同研究员再次被选中是非常优秀的研究员，作为笹川同学会也感到是巨大的荣誉，在场宾客为这三位研究员热情鼓掌。

研究报告会由日中医学协会理事林崎良英先生和评议员高桥和久先生担任主席，每位40期研究员汇报5分钟，日方共同研究员发表2分钟，虽然时间很紧张，由于两位主席有序地推进，会议按预计

时间圆满完成。研究内容包含基础医学、临床医学（手术方法开发、疫学调查法的开发等）、药学、齿科临床及医用工学等多领域，内容相当丰富。报告中最多的是医学领域，涉及癌症治疗、疑难病（自身免疫疾病、脊髓受损神经再生）等先端研究。日方共同研究员就研究内容进一步说明，并共同研究开展的非常顺利。

晚宴的气氛十分热烈，会场上，中日双方研究员们互相合影留念，随处可见共同研究型研究员、攻读学位型研究员与出席会议的日方研究员亲切交谈，热情举杯，本次会议加深了彼此的交流。



■ 第40期共同研究型研究员与教授们合影留念

国家卫健委医养结合政策制定者 访日团赴日考察报告（摘要）



■ 医养结合政策制定者访日代表团成员在顺天堂大学会议室合影留念



■ 代表团访问东京足立医院老人保健中心楼前合影留念



■ 代表团在足立医院会议室

2019年2月25日至3月1日，由日本财团资助、笹川同学策划组织，在日本驻华大使馆、日中医学协会的支持以及国家卫健委国际司的牵头下，由人事司、财务司、国际司、医政医管局、老龄健康司以及国家老年医学中心北京医院、上海护理质控中心的相关同志组成医养结合考察团一行八人赴日对日本医养结合政策制定及实施现状进行了深入学习与交流。

在日期间，考察团一行分别参观访问了厚生劳动省、东京都福祉保健局、顺天堂大学、笹川纪念保健协力财团、东京日医养护中心、东京日医用贺养老院、医疗法人厚生协会东京足立集团等机构，就医养结合有关国家政策、服务提供、人才培养和社会保障等方面的政策和实施情况分别进行了座谈交流和实地参观，进一步了解了日本医养结合的不同模式及特点。

按照国际通用标准，60岁及以上人口占比超过10%或者65岁及以上人口超过7%，标志该国进入老龄化社会。20世纪70年代初，日本65岁及以上老年人口占总人口的比重达到7%，开始步入老龄化社会。截至2016年9月，日本65岁及以上老年人有3461万人，占总人口的27.3%，其中80岁及以上高龄老人达到1045万人，占总人口的8.2%。日本已成为全球老龄化程度最严重的国家。日本开展医养结合探索始于20世纪60年代，经过半个多世纪后形成相对完善成熟的发展模式，实现了从传统的家庭养老向现代的居家—社会型养老的转型。

日本实行“年金—医疗—介护”为核心的医养结合服务体系，是在政府主导下

社会、市场多方参与，以家庭养老为中心、社区老年服务为补充的医养结合服务模式，能够根据老人不同身体状况选择不同类型的医疗或介护服务。日本的养老院中极少设置真正意义上的医院，一方面是因为医院同养老院的执业许可完全不同，另一方面是由于养老院的管理团队很难胜任医院的管理工作。日本的养老院通常会采取签约医生定期巡诊等方式为入住老年人提供健康指导等基本服务，从而集中各自优势提升养老和医疗的专业化效率。养老院一般仅开展长期护理、康复训练和简单急救等医疗服务，严重疾病的治疗则需要通过与周边医院的合作来解决。养老院与周边医院合作既可以集中资源从事专业工作，从商业角度又可以实现互利互惠。

近年来，在日本正在推进地域综合养护体系，即以老年住宅供给为前提，将医疗、护理、预防、生活支援服务有机结合起来，在日常生活中向老年人提供护理服务，使老年人有尊严地在自己住惯了的地域自立生活。这样可以把分散的医疗、护理、预防、居住等服务有机连接起来综合提供，同时避免了重复服务。为了加强医疗护理合作，主要采取了以下措施：一是充分了解地域医疗和福利资源，向有关部门通报地域医疗机构分布情况，并开展医疗护理各业种参加的进修活动。二是促进地域护理会议。市町村有关部门组织居家医疗护理有关的会议，查找存在的问题，提出解决方案。构建地域综合护理体系的有效途径之一，就是由地域综合支援中心或市町村定期召开地域护理会议，由市町村职员、医疗护理相关人员（介护经理

人、介护企业或民间团体、医生、牙医、药剂师、护士、营养管理师）参加，对具体案例进行分析，查找解决方案，实现地域网络。三是构筑24小时365日居家医疗护理供给体制，提供由主治医生参加的上门诊疗活动，促进定期巡回随时应对型上门护理。四是积极促进地域综合支援中心和护理支援专员开展的居家医疗护理咨询活动。五是充实生活支援服务，鼓励老年人社会参与。老年人积极参加社会活动，可以充实生活，起到护理预防作用。实现医疗护理一体化，不仅可以提高老年人生活质量，可以抑制再次住院，还可以削减医疗护理总成本。

20世纪90年代，日本政府为应对因老年人“社会性住院”（老年人长期住院不出院）而导致的医疗保险支付危机，研究出台新的保险制度。1996年，《介护保险法》、《介护保险施行法》、《医疗法（修正案）》等一系列与介护保险相关联的法案出台。2000年，日本正式实施《介护保险法》，建立了一种由全社会支撑老年护理的介护保险体系。这种保险体系包含三种理念：一是支持老年人自立。并非只是照护老年人身体，而是通过护理实现老年人自立；二是以利用者为本。利用者自由选择服务供给方，从多样化的供给主体综合接受保健医疗服务、福利服务；三是采用社会保险方式。主要改变过去行政部门全权决定服务内容的旧的福利制度，是全体国民共同负责老年护理的全新的社会保险体系。利用者只要被认定为需要护理，随时可以接受护理服务，而且护理设施的建设也不仅限于行政部门和社会福利

法人，其他公益团体以及公司、协同组合、民间非营利团体都可以参与建设。日本具有医养结合性质的老龄服务主要体现在以介护保险为基础的介护服务方面。

日本政府高度重视对医养结合产业的行业指导，先后颁布了多项法律法规对医养结合产业服务人员进行培训和资格考试，以保证专业人才的持续供应。通过《社会福祉士和介护福祉士法》和《福祉人才确保法》，规定介护工作者等护理人员应具备的工作能力和专业技术知识能力，并推出资格证书制度，从法律上对护理人员给予其应有的经济、社会地位保障。培训资金由政府和企业共同负担，培育发展专业化的养老服务经营管理机构，提高从业人员专业化水平。

日本法律还规定，地方政府在每万人口的区域内必须建设一个居家养老支援中心，为老人提供看护经理、社会福祉、保健师等多样化服务。日本社区居家养老组织内部形成了“管理员—专业工作人员—照顾员”的专业化体系，医养结合服务队伍由医师、护理人员、介护人员、理学疗养士、作业疗法士、机能训练指导员、生活相谈员、介护支援专门员等8个工种构成，涵盖了服务的所有内容，每个序列都有相应的资格、等级和培训要求，持证上岗，按级取薪，服务队伍呈现出较强的专业化和职业化特征。

日本的医养结合模式全面考察老年人的需求，以居家为中心，以社区为主要依托，为老年人提供综合性、一体化的养老、医疗、护理等服务，为我国的医养结合实践开展提供了宝贵的经验。

（一）以老年人需求为导向的医养结合服务

日本社会养老服务体系建设的重心在构建地区养老支援中心和全力支援居家养老等方面。目前，日本正推进区域内被护理老人信息共享平台建设，可供区域内医疗、养老等机构共享被护理老人的健康情况等信息。另外，日本的医养结合服务机构在内部适老化改造方面比较切合入住老年人需求，同时通过让老年人参与恰当的

劳作来锻炼和恢复其生活自理能力，促进其回归家庭和社会。

随着我国老龄化形势的日益严峻，保障老年人的照护需求、积极探索多元的医养结合模式迫在眉睫。结合日本较成熟的经验，一方面，增强现有社区服务机构的医养结合服务功能，为居家老年人提供以解决日常生活困难为主要内容的社会化服务，为居家养老的失能老人提供保姆式的生活照料、医疗护理、精神慰藉等服务，让居家的老年人同样得到专业性的服务；另一方面，借助互联网大数据平台创新医养结合服务新模式，借助专业运营团队管理养老服务机构，利用互联网技术和大数据思维科技手段促进智慧健康养老和医养结合服务的简洁化和系统化；同时，推动医养结合机构从老年人的需求出发，进行人性化、便利化的适老化改变，并鼓励老年人参与力所能及的劳动，促进身心健康。

（二）完善的法律和政策保障体系

日本医养结合的可持续发展依赖于不断修改完善配套法律法规。日本国会通过的相关法律包括《高龄老人保健福利推进十年战略计划》《生活保护法》《国民健康保险法》《老人福利法》《国民年金法》《介护保险法》《社会福利师和介护福祉士法》《国民养老保险法》《关于社会福利服务基础结构改革》《老年人保健法》等，通过法律文件切实维护老年人权益，为老年人居家养老服务提供全方位法律支持。我国医养结合方面的法律法规还相对薄弱，难以满足医养结合发展的客观需要，制约了医养结合产业的可持续发展。完善老年人相关权益保护法律和老年人长期照护服务体系的构建，逐步建立以“政府主导”向“市场为主导”转变的政策支持和法律监督。积极鼓励和支持开展居家养老，充分考虑我国的生育政策和改革开放以来的人口快速流动的趋势，独生子女家庭、失独家庭、独居家庭等的实际困难和沉重负担，为弱势家庭提供保障的依据。

（三）医疗保险和介护保险的支撑作用

日本的护理保险制度也是在不断修改

完善中，其中介护保险不仅减轻了家庭的负担，对于医疗费用也得到有效控制，拉动养老产业的发展，更重要的是老龄者的护理和调养，得到更专业的服务，提高了其生活质量。对于我国老龄化管理具有十分重要的借鉴意义。医养结合产业属于朝阳产业，市场潜力巨大，涉及到养老地产、老年护理服务行业、老年教育、老年旅游、老年金融等领域。采取商业保险模式还是社会保险模式，费率如何确定，如何处理与基本医疗保险的关系，如何确定政府、单位和个人的权责关系等，都需要在地方试点基础上，统筹考虑经济社会发展水平和人口老龄化趋势，充分借鉴国际经验，认真研究制定符合国情的长期护理保险制度，包括长期照护服务评估标准、评估流程、长期照护服务包、长期照护服务包价格核算等，从而和现有的医疗保险互通互补保障医养结合的可持续发展。

（四）专业化的人才培养

日本政府非常重视对专业人才的培养，无论是医疗卫生体系还是长期照护体系，在人力资源结构设置上，都有明显的人员等级梯度和明确的职责分工，任务划分明确。此外，服务提供人员均有相应的资质认证，这些人员的专业程度很大程度上决定了服务的质量。我国养老服务专门人才的教育工作起步晚，缺乏完整的人才培养体系，缺乏高水平、专业化的人才培养机构。我国亟待加强对医养结合专业人才的培训和培养。我们可以借鉴日本的养老专门人才培养模式，提高养老服务专门人才教育的层次，形成以职业院校为主，普通本科和研究型大学共同参与的格局。同时可以学习日本养老事业产业化的经验，在确立养老服务专门人才的国家资格标准后，采取多渠道的资格准入形式，吸引更多的人员从事养老服务业，保障养老服务专门人才教育的生源和质量。随着护士多点执业试点的推开，积极鼓励和引导有资质的医疗机构和护士为老龄或失能老人提供慢病管理、康复护理、专项护理等护理服务。



■ 代表团参观日医学馆养老设施用贺日托中心



■ 日本东京都政府养老政策制定者与代表团成员在办公室进行会谈



■ 笹川纪念保健协力财团长木下女士在介绍由财团独自建立的养老人才创业计划